

星が瞬きし終えた後に

この手は白く地球の光でできている

ふっと揺らすと

第七世界から届いた光がその手を再構成している

知っている この白い手はわたしの手のまま

母から生まれ

幾多の穢れと美しい心を知り

強く消えながら うっすらあらわれる

孤児たちの全いのち

わたしはこの手をまだ伸ばす

わたしはこの眼をまだ開く

知っている わたしは巨人ではない

一度 わたしよりわたしに似たやさしい影を確認する

わたしは使い古された一人称ではない

だから恐い

だから寒い

それでもヒトを離れて

風より透けていたい日はある わたしを

広大なわたしは永遠に見続けてきている

照り返す

星の街

この「字路を

今日はどちらに曲がろうか

それとも塀を越えてみようか

ここからそれほど遠くないところで

わたしが迷っている